

### (3) 一人暮らし高齢者は増加傾向にあるも一人で過ごすことには不安を感じている

65歳以上の一人暮らし高齢者の増加は男女ともに顕著であり、昭和55（1980）年には男性約19万人、女性約69万人、高齢者人口に占める割合は男性4.3%、女性11.2%であったが、平成17（2005）年には男性約105万人、女性約281万人、高齢者人口に占める割合は男性9.7%、女性19.0%と、女性における比率は極めて高い。今後も一人暮らし高齢者は増加を続け、特に男性で一人暮らし高齢者の割合が大きく伸びることが見込まれている（図1-2-1-10）。

また、一人暮らし高齢者では他の世帯と比べ、健康や生活費などの経済的な心配など「心配ごとや悩みごとがある」人が多い。具体的な心配ごとや悩みごととしては、「自分の健康」や「生活費などの経済的なこと」、また「病気のときに面倒を見てくれる人がいない」や「一人暮らしや孤独になること」である（図1-2-1-11）。

図1-2-1-10 一人暮らしの高齢者の動向

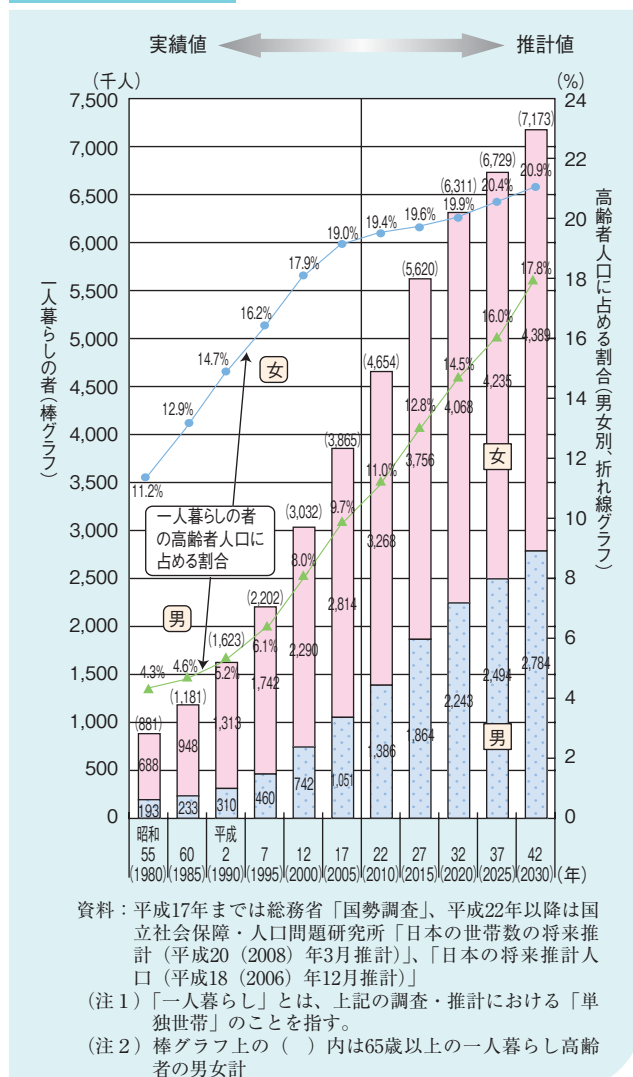


図1-2-1-9 高齢者の子どもや孫との付き合い方

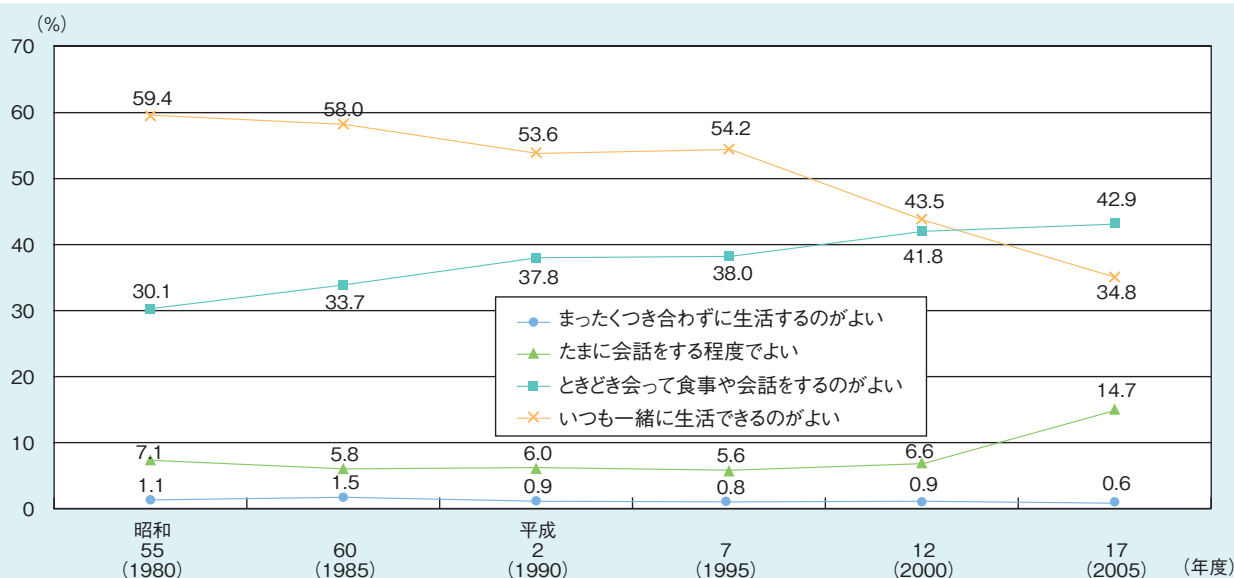
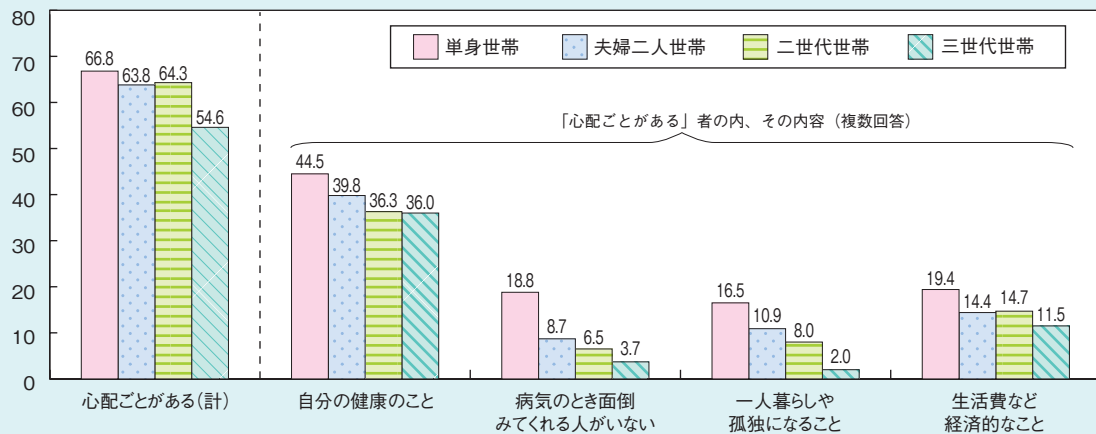
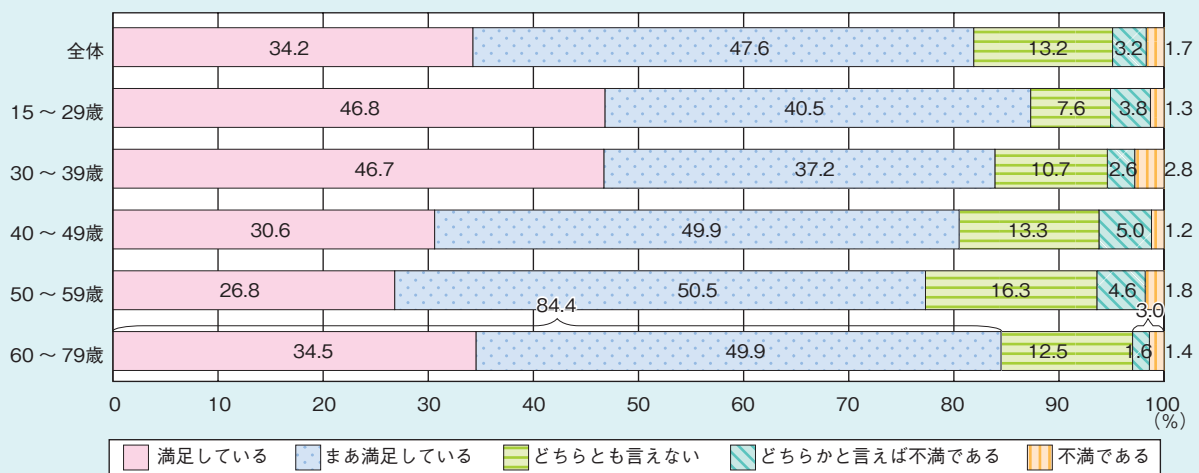


図 1-2-1-11 同居形態別にみた心配ごとや悩みごと



資料：内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」(平成20年)  
(注) 調査対象は、全国60歳以上の男女

図 1-2-1-12 年齢階級別の夫婦関係の満足度



資料：内閣府「国民生活選好度調査」(平成18年)

#### (4) 高齢者の夫婦関係の満足度は高い

三世帯世帯の割合が低下する中で、夫婦のみの世帯で暮らす高齢者が増加している。

以下では高齢者の夫婦関係についてみてみよう。夫婦関係の満足度を尋ねたところ、60～79歳の高齢者において、満足している(「満足している」と「まあ満足している」の合計)と回答した人の割合が84.4%となっている一方、不満である(「不満である」と「どちらかと言えば不満である」の合計)と回答した人は3.0%にとどまっている(図1-2-1-12)。

#### (5) 配偶者の有無をみると、配偶者と死別した割合は女性が男性の4倍にのぼる

65歳以上の高齢者の配偶関係についてみると、平成17(2005)年における有配偶率は、男性81.8%に対し、女性は47.1%である。女性高齢者の約2人に1人が配偶者なしとなっているが、その割合は低下傾向にある。また、未婚率は、男性2.4%、女性3.5%、離別率は男性2.8%、女性3.9%と共に上昇傾向となっている(図1-2-1-13)。